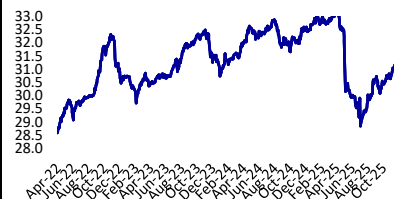
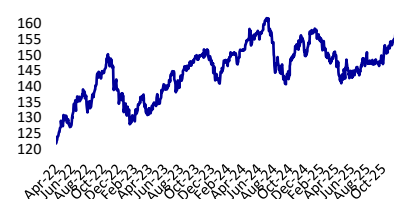


市場動向

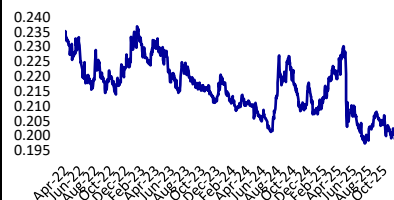
■USD/TWD



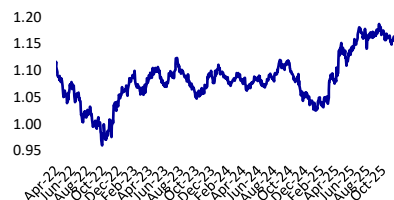
■USD/JPY



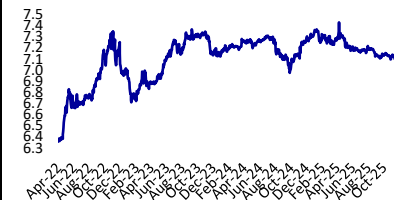
■JPY/TWD



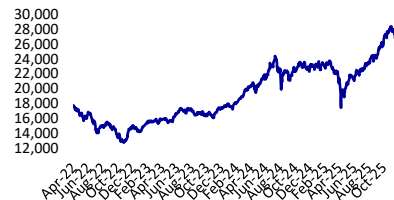
■EUR/USD



■USD/CNH

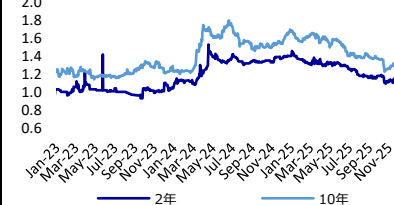


■台湾加権指数



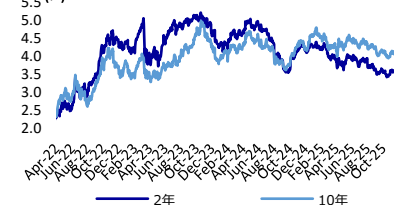
■台湾國債利回り

(%)



■米国債利回り

(%)



先週の市場動向

■USD/TWD

先週のUSD/TWDは上昇。週初11月17日、USD/TWDは31.130で始値。前週末の台湾中銀と米財務省による為替に関する共同声明を受け、台湾ドルの上昇期待が強まる。早朝は輸出業者の売りが優勢となり、一時31.024まで下落。午後は輸出業者の売りが続く中、海外投資家によるドル買いでUSD/TWD終値は31.180まで反発。18日、欧米株安を受けて台株が1%超下落、USD/TWDは一時31.239を記録。19日、12月FOMCの利下げ期待が後退し、アジア株・為替市場全体が調整。USD/TWDは一時31.256まで上昇。20日、国際ドル高が継続。AI関連株の上昇で台株は反発したが、31.200前半で膠着。午後は海外投資家の買い越しが見られたものの、市場は様子見ムードが強く、終値は31.295。21日、米雇用統計発表後の米株大幅安を受け、台株は3.6%下落、海外投資家の売り越し拡大。USD/TWDは一時31.450まで上昇、週末は31.430で引け、前週比0.90%上昇。週間を通じて、外国人投資家の株式売り越し額は合計1,453.2億台湾ドルとなった。

■USD/JPY

先週のUSD/JPYは3円以上円安が進行するなど荒い動き。週初17日、154.59円でオープンしたドル/円は、本邦7～9月期GDP（速報）が前年比マイナス成長ながら市場予想を上回り、一時週安値154.43円をつけた。海外時間は154円台後半で小動き後、米11月NY連銀製造業景気指数の強い結果で155円台前半へ上昇。18日は世界的な株安によるリスク回避で一時154円台後半へ下落したが、高市首相と植田日銀総裁の会談後、155円台半ばまで反発し、米金利上昇も支えとなり155円台後半まで上昇。19日海外時間は片山財務相が日銀の利上げ容認姿勢を示すも円売りが加速し156円台に。その後、10月FOMC議事要旨のタカ派内容で米利下げ観測が後退、ドル買いが進み157円台前半まで上昇。20日は米半導体大手の好決算を受け米株高となり、一時2025年1月15日以来の高値となる157.90円まで上昇した。21日、片山財務大臣が過度な変動や投機的な動きに対して為替介入の可能性を示唆したことを受けて、ドル円は156円台半ばまで下落した。最終的には前週比1.21%ドル高円安の156.40で先週の取引を終了。

■USD/TWD 予想レンジ：31.200-31.600

今週はUSD/TWDの高値圏で推移する予想。資金流出により上昇傾向が続いているものの、連日の大幅な台湾ドル安の一服や、月末における輸出企業によるドル売り調整の影響も考えられます。そのため、今週は高値圏での動きが見込まれます。

■USD/JPY 予想レンジ：154.50-158.80

今週のUSD/JPYは高値圏で底堅い動きが続く予想。日本財政支出を拡大したことに加え、12月の米連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ観測が後退したことから、USD/JPYは約10か月ぶりの高値圏を維持しています。市場では、日本当局が為替介入などで相場を調整するかどうかに注目が集まっています。

今週の予想

11/24 (MON)	台湾10月失業率
11/25 (TUE)	台湾10月鉱工業生産、米9月小売売上高、米9月PPI
11/26 (WED)	米9月耐久財受注
11/27 (THU)	
11/28 (FRI)	台湾Q3GDP成長率修正値、日10月小売売上高、日失業率

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。